

西目屋村バイオマス産業都市構想の概要

青森県西目屋村、人口 約1,400人、面積 24,602ha

構想の概要

西目屋村に豊富に存在する森林資源を薪に加工し、村内におけるエネルギー利用を化石燃料から自然エネルギーにシフトしていく。この取組を通じて、村内の林内環境の改善、二酸化炭素排出量削減のほか、地域住民の所得向上に結び付けていく。

1. 将来像

- ①木質バイオマスの活用を通じ、森林環境保全と産業の成長が両立し、村民が自ら稼ぎより豊かな生活に結びつく村
- ②エネルギーを地産地消し、災害や非常時につよい自立した村
- ③木質バイオマスエネルギーを活用し、住み良い環境を整備した村
- ④世界遺産白神山地と木質バイオマス産業が融合し、世界に誇れる地域ブランドを有する村

2. 事業化プロジェクト

西目屋村は森林資源が豊かな地域である。村内の森林資源を薪として加工し、村内の熱需要施設で利用する体制を構築することで、地域経済の更なる好循環を目指す。

- ①集合住宅への熱供給事業
- ②公共施設への薪ボイラー導入
- ③官民連携による木質バイオマス燃料製造・エネルギー供給事業
- ④体験型観光業(エコツーリズム)・環境教育事業

3. 目標（10年後）

【バイオマス利用率】

未利用森林資源 161t/年(2.9%)→1,928t/年(25.5%)
用途:燃料化(薪)、村内外における熱利用

4. 地域波及効果

- ①経済波及効果 43百万円
- ②雇用の創出 アルバイト20人、管理者1人
- ③村内の新規木材需要 1,069m³/年
- ④温室効果ガス削減量 492t-CO₂/年
- ⑤化石燃料代替量 熱5,390GJ/年
- ⑥森林の保全、里地里山の再生、新たな企業の設立 等

5. 実施体制

- 行政(村や国、県)、村内有識者、森林組合、熱需要施設管理者等によって構成される「西目屋村自然エネルギー活用調査委員会(平成26年度設置)」によるプロジェクト推進・管理・村内外への広報は村が担当する
- 木質バイオマスの安定供給については、森林管理署、森林総研、森林組合、県、村で構成される「西目屋地域森林整備推進協定運営会議(平成28年度設置)」で協議することとし、薪製造を担う西目屋薪エネルギー株式会社や原料供給を支援する県森連はオブザーバーとして参加する。

6. その他

- ・西目屋村新総合計画(平成24～32年)
- ・西目屋村まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成27～31年)
- ・西目屋地域森林整備実施計画(平成29～平成33年)
- ・西目屋村環境基本計画(平成26～35年)
- ・エネルギー地産地消ビジョン(平成27年～)
- ・西目屋村バイオマス活用推進計画(平成29年度策定予定)

